

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年2月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2272100377		
法人名	有限会社 エーティ		
事業所名	グループホーム ほほえみ		
所在地 (電話番号)	富士宮市大中里1164番地の1 (電話) 0544-28-4141		
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成19年10月15日		

【情報提供票より】(平成19年10月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造造り 2階建ての1階~2階	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	24,000~ 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,300 円

(4) 利用者の概要(10月11日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低 67 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	財団法人富士心身リハビリテーション研究所附属病院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム開設4年目を迎える。ホーム代表者の住居に隣接して開設された木造二階建ての建物は、普通の民家の立ち並ぶ中に溶け込んで違和感はない。外観だけでなく、地域に根付いたホームづくりに開設以降取り組み、地域住民との交流を大切に考え、地域行事への積極的な参加や日常での近隣住民との触れ合いが自然に深められてきている。利用者に「笑顔で明るい生活」を提供するために、職員は常に利用者に寄り添いながら、何が求められているか振り返り、安心して落ち着いた生活を提供しようと努力している。サービス向上のために、職員の質の向上を図るとともに、利用者と利用者家族の関係を深めているので、今後の取り組みにも期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果は職員全員が内容を確認し、意識して改善に努めてきた。定期的な職員会議では、常にそれまでの取り組みを振り返り、改善や試行錯誤を重ね、利用者本位のサービス提供に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価を行うことに対する理解を深め、これまでの取り組みの振り返りを行うように位置付け取り組んだ。一過性のものでせず、これまで以上の取り組みに向けて定期的に行うことを期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>市職員、地域(地元)区長、利用者家族、利用者等により、2ヶ月に一度定期的に開催している。ホームの運営状況を伝え、その取り組みに意見や助言を得ることで、利用者の生活の幅が広がるように有意義に開催している。外部からの意見や助言を大切に考え、運営やサービス提供の充実に活かしていくように考えている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時には、運営やサービス提供方法等に気軽に意見を得るように考えている。また、それらがあつた場合には検討し、必要に応じて運営に反映させるようにしている。苦情のあつた場合にも速やかに対応するように仕組みを確立している。些細な意見等も得ようとしているので、今後も家族との風通しの良さを大切に考えて取り組まれることを期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム代表者が地元(隣接して在住)ということもあり、開設以降地域とは密接した交流がある。地域住民との交流も自然に深まっており、地域行事にも進んで参加したり、野菜等の食材を提供されたりと地域に根付いたホームとなっている。利用者とも顔なじみな関係となり、散歩時に声を掛けられるような関係となっているので、自然に地域住民にも見守られているようにも感じられる。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりが、その人らしく生き活きと、住み慣れた地域で生活し続けられるように「笑顔で明るい生活」をホーム理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者が笑顔で自分らしく生活できるように、理念を常に確認し、それが実現できるように取り組んでいる。利用者が何を求め、ホームとしてそれにどう応えていくかを常に考えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム代表者が地域に在住しているので、開設以降も地域住民との関わりが深く、地域行事には積極的に参加している。地域の夏祭りや老人クラブ活動にも参加したり、近隣住民から野菜や花等をもらう等、交流も深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、全ての職員で取り組んでいる。毎日の業務でなかなか出来ない振り返りをこの機会に行う考えで取り組み、今後も定期的な反省や必要に応じた改善と更なる取り組みに繋げていくように考えている。	○	評価の意義を理解し、建設的に取り組んでいるので、今後も定期的な取り組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、定期的開催している運営推進会議には、地域住民代表である区長、市職員、利用者及び家族等に参加を求め、運営状況やサービス提供内容等を報告し、利用者へのサービス充実に向けた意見等を得て、有意義に開催している。出された意見等を記録し、職員内で共有し、利用者へのサービス向上に向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の地域密着型S部会として意見や要望を伝えたり、必要に応じた市との連絡、運営推進会議への出席を得て、必要な事柄を相談等している。しかし、利用者サービスの向上に向けての定期的な話し合いや事例検討、ケース検討等の機会が設けられるにまでは至っていない。	○	保険者である市(職員)には、積極的に情報提供を行い、地域密着型S事業所としての充実した活動に向けて定期的な話し合いが行われるように検討を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には利用者の生活の様子を伝え、毎月金銭出納状況を伝えている。ホーム便りである「ほほえみ便り」を三ヶ月に一度発行している。また、必要に応じた家族との連絡も随時行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に何でも言えるような雰囲気づくりに努め、些細な意見や相談等も適切に受け止め、内容を把握するとともに、必要に応じて運営にも反映させていくようにしている。運営推進会議でも意見をj得て、苦情があった場合にも速やかに解決する仕組みが講じられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームのみの運営のため、職員の移動はない。職員の離職による利用者への弊害を理解し、出来る限りそれが起こらないように職員間の情報の共有や不平や不満が募らないように配慮して、話し合いの場を多く設けるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービス向上に向けて、職員の質の向上は不可欠という考えのもとで、内部研修の充実と外部研修への受講を積極的に行っている。受講後はそれを他の職員に伝え、得られた内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内同業者(GH)との交流を積極的に行い、相互学習会や行事に参加し、日常における連絡や連携、ネットワークの充実を図るように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申込み時には、利用申込者の生活歴を十分把握し、職員と顔なじみの関係づくりに心掛けると同時に、利用後も安心して生活し続けられるように体験利用を勧める等して、一人ひとりに応じたサービスが行えるように配慮している。特に利用開始当初は、出来る限り職員が寄り添うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の人格と尊厳を尊重しながら張り合いのある生活が行えるように利用者主体の生活支援を行っている。そのうえで、共にホーム内の役割を担ったり、行動することで、喜び合える関係づくりが生まれている。利用者も職員を信頼している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活の充実に向けて、日常生活での利用者の意向や希望を把握するように努めている。また、家族からもそれらを聞き出すようにしている。把握した内容は記録し、職員間で共有し、実現できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者及び家族の意向や希望を踏まえた介護計画とするように、定期的な職員会議で検討し、具体的な介護計画を策定するようにしている。また、策定した計画は、利用者及び家族にも確認を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常生活での気付きや得られた事柄を記録し、定期的な話し合いを行い、3ヶ月に一度のモニタリングで計画の見直しを行っている。状況に変がある場合には、随時見直すようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者及び家族のその時々々の要望を踏まえた柔軟な支援を行っている。また、利用者の心身の機能の維持と向上に向けた個別支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望するかかりつけ医への受診支援を行っている。受診に際しては、バイタルチェック表を持参し、受診に同行する他、その結果を家族にも伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や利用者の思いを把握し、それに応える為の準備を進めている。	○	利用者及び家族ごとにターミナルケアに対する思いは異なるので、定期的にその方針を確認したり、かかりつけ医等と連携を図ることで、準備と検討を重ねられるように期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりへの尊厳や人格を尊重し、プライバシーに配慮した支援に心掛けている。また、個人情報に関する取扱いに対する理解も深め、適切に扱うように心掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り利用者の希望や意向に沿った思い思いの生活が送れるように柔軟な支援を行っている。一人ひとりのペースを尊重し、納得される支援を行うように留意している。	○	共同生活であり、全て希望に沿った支援にまで至っていないという自己評価である。今後も柔軟な対応に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に献立を考え、食材を購入し、調理や準備を行い、食事し、片づけを行う等、食事を楽しい一時としている。また、野菜栽培を利用者で行い、食材としても利用する等の工夫も行われている。	○	地域からの食材(野菜等)の提供もあり、豊かな食生活、楽しんで調理する機会を多く提供している。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日14:00～入浴することができ、利用者の希望に合わせて支援が行われている。入浴も楽しみな一時と考え、リラックスした時間となるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内の家事を無理強いすること無く、利用者と職員が自然に協力し合い担っている。一人ひとりの楽しみごとを把握し、それぞれに応じた楽しみごとが実現するように支援している。また、天候や季節に応じて、遠出したり常に変化のある興味を持てるような日々が送れるように留意している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により積極的な外出支援を行っている。また、興味や関心をもって外出できるように工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠することの弊害を理解し、日中は一切施錠していない。利用者の行動を制限することなく、自由な行動を見守るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に協力を仰ぎ定期的な防災訓練を行う他、夜間時の避難訓練も実施する等、あらゆる事態を想定した検討と対策を講じている。また、災害時には地域住民の協力も仰げるような関係づくりが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望も踏まえて献立を決め、毎日一緒に買い物に行く等しているが、栄養のバランスには留意している。食事摂取状況や水分摂取状況等の把握にも努めている。	○	利用者とともに献立を考えたり、近隣住民からの野菜等の差し入れもあり、献立もバラエティーに富んでいるが、ややアンバランスな献立日もあるので、現状を維持しながらも時折りは振り返る機会も設けて欲しい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は明るく、共用空間には家庭らしい雰囲気づくりが施され、利用者も落ち着いて過ごしている。利用者が思い思いに過ごせるように配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や調度品を持ち込み、その人らしい個性ある居室づくりを支援している。利用者のプライバシー空間でもあるので、職員も留意し、リラックスできるような空間づくりを促している。		